令和6年3月１日号

島野伝太郎一家の まちなみ通信 No.58

～ 令和５年度修理事業 ② ～

建吉：通りに面した基礎も宮島の石が使われとるが、他にも工夫されとることがえっとあるんじゃ。

伝太郎：どんなことですか。

玄関内部で床面が道路より下がっている様子

建吉：まず、持ち送りの大きさじゃのぅ。ここの前面の道路は、昔より高さがずいぶん上がっとるんじゃ。これは、修理の時に出てきた昔の敷石から分かったんじゃが、最初に敷石が置かれた時から考えると、この道路は、30 ㎝以上も高こうなっとるんじゃ。今の玄関の内側の床面が、昔の道路の高さだったようじゃ。じゃけぇ、道路が高こうなっとる分、建物の１階の高さが低うなっとるように見えるんじゃ。持ち送りを本来の大きさでつけるとバランスが悪うなるけぇ、持ち送りの大きさも現在の高さに合わせて工夫しとるんじゃ。

持ち送り

伝太郎：そんな工夫がされているんですね。他にはどんな特徴があるんですか。

建吉：宮島の町家は柱が細うて華奢（きゃしゃ）なものが多いんじゃ。じゃけぇ、修理の時に地震にも耐えられるように修理に併せて補強を行っとるんじゃ。その一つが火打梁（ひうちはり）なんじゃ。

伝太郎：火打梁とは、どんなものですか。

建吉：木造建築の床組みや小屋組みが、変形することを防ぐために縦方向、横方向の梁の間を、ちょうど直角三角形になるように組まれとる斜め方向の梁のことじゃ。１階の床の下部に設けるんが火打土台（ひうちどだい）、２階などの床や小屋組に設けるもんを火打梁（ひうちはり）っちゅうんじゃ。あと、この反対側の壁には構造用合板を入れとるんじゃ。

火打梁（ひうちはり）

この家みとぅに古い家は、梁と桁が水平でない場合があってのぅ、こんなときは火打梁（ひうちはり）が効かんけえ、構造用合板を使こうて補強をしとるんじゃ。この家もそうじゃが、木造の家は、柱や梁などの軸組で支えられとるんじゃ。これに構造用合板を入れることで壁っちゅう「面」の補強で横からの力に強い家になるんじゃ。構造用合板で造られた壁は横からの力には強いんじゃが、地震の揺れによる力は様々な方向からかかってくるんじゃ。じゃけぇ今回は２階の和室の床や天井内に構造用合板でねじれに対しても補強しとるんじゃ。修理じゃあ、まず、外壁のモルタルや鉄板を取って、２階を跳ね出しにしたんじゃが、シロアリに喰われとったけぇ、添柱を建てて内側にフレームをつくって支えとるんじゃ。こうやって伝建の修理で耐震補強をすることで、古い建物で生活する人が安心して住めるようになるんじゃ。じゃが、建物の状態や条件で補強するのに何がいいかは違うんじゃ。

補強のため追加された壁

町家の模型が完成しました。

宮島工業高校建築学科の３年生が取り組んでいた宮島こもんの模型が完成しました。大きさは約 100 分の１の縮尺で、夏から町家について学び理解を深めながら、何度にも分けて測量を行い、図面を作成、３Ｄプリンターで製作しました。外観だけでなく、建具なども精巧に作り込まれています。「ぜひ手に取って内部も見て欲しい」との生徒さんからの希望により etto 宮島交流館で公開しています。

みやじまの町家に親しむ会からのお知らせ

雛めぐりと重要伝統的建造物厳妹屋の一般公開

みやじまの町家に親しむ会では、宮島の伝統的建造物をより多くの方に知っていただき、理解を深めることを目的に、桃の節句にあわせて、伝統的建造物の厳妹屋で雛人形を飾り会員が建物などをご案内します。

宮島の重要伝統的建造物は個人の方が所有される建物が多いため、内部を見学できる機会がなかなかありません。

貴重なこの機会に、実際に伝統的建造物を活用されている厳妹屋の内部を見学してみませんか。

併せて、伝統的建造物をお持ちの方を対象として建物の修理の相談もお受けします。

初めて訪れてもなぜか懐かしいそんな宮島の神棚がある厳妹屋の町家で春の訪れを感じてみませんか。

開催時間中は随時、説明や相談の受付を行います。

予約は不要、入場及び参加費は無料です。

お気軽にお立ち寄りください。

厳妹屋

日時　　令和６年３月３日（日）11:00～16:00

場所　　厳妹屋（宮島町 580）

桃の節句

問い合わせ　宮島企画調整課 宮島まちづくり推進係　℡(0829) 30-9119

まちなみ通信 No.58（令和６年３月１日）発行
廿日市市経営企画部宮島企画調整課宮島まちづくり推進係　℡(0829)30-9119　FAX(0829)32-1059